

三井住友海上火災保険株式会社

広報部 〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台 3-9
TEL: 03-3259-3111(代表)
www.ms-ins.com

2025年3月11日

～被災時の対応を自ら考え行動し、窮地を切り拓く力を身に着ける～

体験型防災教育コンテンツ「HIRAQ（ヒラク）」を提供開始

MS&ADインシュアランスグループの三井住友海上火災保険株式会社（社長：船曳 真一郎）は、本日より、地震等の被災時に周辺情報を基に自ら考え、行動する力を養う体験型の防災教育コンテンツ「HIRAQ（ヒラク）」※1を提供開始します。

当社は、本コンテンツの提供を通じて、お客さまの防災・減災教育や災害に強い社会づくりを後押しするとともに、保険本来の機能である事故・災害時の補償にとどまらない、新たな価値を提供していきます。

※1：（制作協力）株式会社NHKエデュケーショナル、（監修）京都大学防災研究所 矢守 克也 教授

1. 背景

自然災害が発生しやすいとされる日本では、災害から命を守るために、災害発生の仕組みや社会と地域の実態を知り、備え方や災害発生時の対処方法を学ぶこと、さらにはそれらを実践する力を育む「防災教育」の重要性が高まっています。このような中、当社は、具体的な被災シナリオにおけるゲーム形式の体験型教育を通じて、自ら考え行動する力を養うとともに、多くの人が防災に向き合う機会を提供するため、本コンテンツを開発しました。

＜ご参考＞文部科学省が掲げる防災教育のねらい※2

- ・災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができるようにする。
- ・災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする。
- ・自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解できるようにする。

※2：（出典）内閣府防災情報「[特集 防災教育](#)」

2. 概要

本コンテンツは、実際に起こり得る3つの被災シナリオにおいて、それぞれの問いに向き合い、状況に応じて与えられる情報をヒントに、参加者同士が議論しながら解決策を考えるものです。

専門家が持つ防災知識を紹介することで、知識レベルに関わらず参加できます。また、具体的な被災シーンにおいて想像力を働かせ、参加者同士の知識とアイデアを共有することで、実効性のある「防災知識の引き出し」を増やすよう、工夫しています。その引き出しを多く持つことで、より良い判断を促し、自分だけでなく周りの命を救うことにも繋がります。

＜シナリオの種類＞

シナリオ	概要	提供開始日
避難所生活	避難所生活の中でより良い運営を考える	3月11日
緊急避難	大雨災害に遭遇し、一時避難先での対処を考える	3月31日
帰宅困難	外出先で大地震に遭遇し、帰宅行動を考える	

**3. 今後の展開**

本コンテンツは、地域主催の防災イベントや中学校・高等学校での出張授業・ワークショップなどで展開していきます。また、今後は、中学校・高等学校での授業展開において、学習指導要領に沿った指導案の作成を検討しており、教員の支援にも繋がっていきます。

<コンテンツのイメージ>

災害避難シミュレーション (ヒラク)

CASE 避難所生活

★2番の人が読んでね

避難所生活も5日目。
避難所って、自治体の人が運営するのだからって思ったけど、実際には、誰がリーダーなのか決まらなくて、大混乱だった。

ゴミ出しや、掃除の分担が、少しずつ始まって、避難所づくりで自分たちでやるんだなって思った。昨日からは温かいご飯や、お風呂のサービスも。今はここが「僕の居場所」って感じ。

向かいのスペースに住んでいるのは7才のハヤトくん。この2日くらい、元気がないような…。どうしたのかな。

ページをひらいて、3つのQを考えていこう。

1ページめくる

MS&AD 三井住友海上

Q1 目安は4分

MAPと右のページを見て考えよう

▶ 避難時間になったら

▶ 出た目の人が決断とその理由を言おう。

▶ 全プレイヤーが納得したらページをひらこう。

ディスカッションの仕方に迷ったら

▶ それぞれの場所について、子どもにとっての、メリット・デメリットを話し合おう。

▶ その場所に遊び場ができると、困る人がいないか考えてみよう。

★3番と4番の人が読んでね

わたし (17才) はやと (10才)

最近、元気がないね。なにがあったの?

だって一ずっと遊べないんだよ。

おんなじ学校の友達がいなくなると、でも、この前、友だちとしゃべってたら、大人の人に話されたんだよ

そっかー。

遊んでも話られるし、ゲームもないし、テレビはいつも大人ニュースだし。

はやとくんの家は全壊で、しばらく避難所生活のはず。このまま、ほっとけない。そうだと、大人にも相談して「子ども遊び場」をつくらないかな。

01 ヒントページ

候補は4か所。どこも一長一短だね。

ボランティアも増えている。住人以外の人が行き来する場所は怖いんじゃない?

ケンケンバしたり、なわとびできるくらいの広さはいるね。

感染症患者スペースや居住スペースに近いと、「うるさい」と苦情がくるかも。

子どもって赤ちゃんから高校生くらいまで? すると、今40人くらいいるね。

人けのないところは危ないんじゃない?

避難者は200人くらいで、毎日増えたり減ったりしている。お年寄りの方が多いね。

全国から長く物資が送られてくるよ。

<議論の様子 (出典：学校法人新渡戸文化学園)>

